

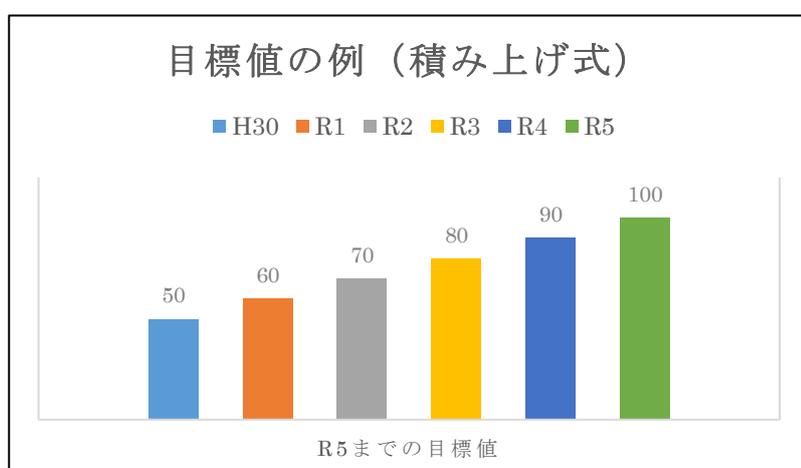
【事業評価パターンについて】

実施計画の事業に、以下の3つのパターンを当てはめて評価する。

①積み上げ評価

累計登録者数や延べ参加者数などが、5年間で段階的に上がり目標値を達成できるように設定されているもの。

毎年目標値までの達成率で年度評価をし、最終年度の目標達成率を総合評価とする。また、現状値から令和5年度までの伸び率も最終年度に評価し、総合評価の参考とする。

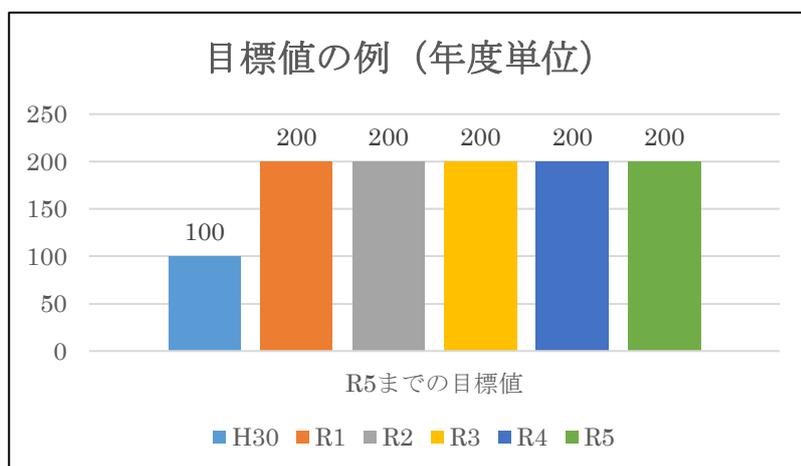


累計数が毎年10ごと追加されていき、最終目標値(100)に届く目標設定。

②年度単位評価

年間の参加者数や、登録者数などが最終年度（令和5年度）の目標値を設定年度に達成できるように設定されているもの。

毎年実績が、目標値をどの程度達成しているかで年度評価し、5年間の評価の平均が総合評価となる。



令和5年度に200の実績となっていることが目標のため、毎年度200を目標値としている。

③削減指標評価

待機児童数や要保護対象者の安全確保件数など、事案があることがマイナスで削減していくことが目標であるもの。

毎年の実績が、目標値をどの程度達成しているか(減っているか)を年度評価とし、最終年度の評価が総合評価となる。

《評価区分（年度での評価）》

区分	評価基準
A 【80% ≤ 達成率】	目標（値）もしくは計画で設定した数値等を概ね達成することができたもの。
B+ 【60% ≤ 達成率 < 80%】	目標（値）もしくは計画で設定した数値等を達成できなかったが、それに近い成果があったもの。
B 【40% ≤ 達成率 < 60%】	目標（値）もしくは計画で設定した数値等を達成できなかったが、基準値からは成果があったもの。
B- 【20% ≤ 達成率 < 40%】	目標（値）もしくは計画で設定した数値等を達成できなかったが、基準値からわずかに成果があったもの。
C 【達成率 < 20%】	目標（値）もしくは計画で設定した数値等を達成できず、基準値からも改善がほとんど見られなかったもの。
評価なし	事業の未実施・中止などで、達成率の算出ができないもの。